

## NEWS RELEASE

2020年2月5日

日本豆乳協会

SOY2001

### 日本豆乳協会

#### 2019年における豆乳類の生産量が408,919 kℓを達成、 過去最高の生産量を記録

～ 毎年継続して、着実な伸びを示し、この10年間で、無調整豆乳は5倍に拡大 ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2019年1-12月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は408,919 kℓとなり、前年と比べ、12.7%増を記録し豆乳を中心に市場が伸長しています。

また、豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、2019年10月-12月期においては、106,744 kℓ（115.1%）となりました。豆乳類を分類別に見ると、最も伸び率が高いのは「豆乳（無調整）」で、生産量は31,560 kℓ、23.5%増となりました。また、生産量が最も多い「調製豆乳」は、51,757kℓ（106.1%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,032 kℓ（109.1%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、15,319 kℓ（104.4%）と、すべてのカテゴリーにおいて、生産量は順調に拡大しており、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しました。豆乳協会では、生活者が、豆乳の特長や成分の優位性に触れる機会が増えたことが後押しとなり、「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」などの豆乳愛飲者のリピート購入が増え、さらには新商品の発売が開始されたこの時期に、豆乳初心者が豆乳飲料を飲み始めたことが市場拡大の要因になったと考えます。

また、2019年においては第2四半期より、豆乳類の生産量は四半期で100,000 kℓを超えるようになり、特に「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」の愛飲者が増加傾向にあります。また、「豆乳（無調整）」においては、2008年に20,999 kℓであったのに対し、2019年には108,320 kℓと、この10年間で約5倍以上となり、「調製豆乳」においては9,582 kℓ（2008年）から205,072 kℓ（2019年）と倍以上に増加しています。生活者への飲み方、食べ方、料理などの提案が受け入れられ、日常的に鍋や料理に加え、コーヒーや紅茶等にも気軽に使用するようになってきたことが、家庭の中に、豆乳を愛飲する習慣が

浸透してきていることを確認しました。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2015年2.4ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル  
田中/西岡

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017